



明星抄

松風薄雲
九
槿





松風



卷名歌并詞あり号此源三十歳乃秋边
 二条院の東院也遊生卷
 の末より造り給申んえり

東院云

明心書をす中世給ふこと也

おのそい

戸輝をどれ給ある

志んてんりあさけ給り

花をよ河海院を

其ありて中をさるるに河海院を

其ありて中をさるるに河海院を

其ありて中をさるるに河海院を

解んてあまのこゝろにんじんく 後れりよひま

あしく多々おとりり

昔母志のほおやち めえん 冠のわがち中務 ナカニ

之也兼明親王 兼アキラノミコ 前中書王 ナカニノミコ 小掇 コササ して書れ号 ナカニ 中書王

あひほくふんも めえん 冠のわが

世中と今り ササ 冠のわが

さるくおとあけ ササ 冠のわが

まゝのわが ササ 冠のわが

あつりけ ササ 冠のわが

由れ ササ 冠のわが

志 ササ 冠のわが

あつた ササ 冠のわが

や ササ 冠のわが

あ ササ 冠のわが

あ ササ 冠のわが

す ササ 冠のわが

古 ササ 冠のわが

あ ササ 冠のわが

あ ササ 冠のわが

あ ササ 冠のわが

あ ササ 冠のわが

あ ササ 冠のわが

はあーあーと

つれなきと豊か〜

とありあはらる

とありあはらる〜

勝立強し

さうに其あま

たふの箱

券を〜

文徳の物なごらあれどやうれ

物〜は〜らあはらる

大後のきらひを

海北はか〜らあれ

ぬさ海よらひあま

あ〜らあ〜

あ〜らあ〜

用〜のあ〜らあ〜

つ〜らあ〜

あ〜らあ〜

〜海北はか〜

〜あ〜らあ〜

海北はか〜

あ〜らあ〜

あ〜らあ〜

あ〜らあ〜

〜あ〜らあ〜

惟光とつら〜

〜あ〜らあ〜

大井河の池を〜

あ〜らあ〜

〜あ〜らあ〜

源の〜らあ〜

あ〜らあ〜

〜あ〜らあ〜

た〜の〜らあ〜

あ〜らあ〜

あひらりてて

ほれゆ事也

みなりそあても

れまいついあやとて

そころんせとてじ

のろつきのふとて

天りむらり人れ

はあ今業を加へて

さゆ二具のそ具あつされどけ又とまんとけ

てみるあつり不審出まめら地は契りりて

いありきめと後切と天と欲退時の文今別

る^{カセニ}地のをむらりにとりてかへのがらん天へ

もらるれれえりて者もけ若あゆと也

正法念經云天上欲退時心生大苦惱地獄諸苦

毒十六不及^{トクニ}又云果報若盡還墮^{モレツクヤソテオソ}三途^{ゾニ}云

天人のりには界をこにありて又天よゆふ

事あり其^{カセニ}と^{フカ}別のこにれ地のゆき

と^テ事^{サレ}にけ^{カセニ}ゆきと^{フカ}あつりへるれ女の別

の地の事と^{フカ}れ

命つさぬ^{フカ} け^{カセニ}あ^{フカ}若^{フカ}れ^{フカ}後^{フカ}よ^{フカ}あ^{フカ}わ^{フカ}つ^{フカ}れ^{フカ}ゆ^{フカ}

そと^{フカ}糸^{フカ}の^{フカ}あ^{フカ}る^{フカ}本^{フカ}河^{フカ}り^{フカ}不^{フカ}用^{フカ}と^{フカ}そ^{フカ}ら^{フカ}其^{フカ}糸^{フカ}

の^{フカ}業^{フカ}巻^{フカ}に^{フカ}あ^{フカ}り^{フカ}空^{フカ}統^{フカ}を^{フカ}り^{フカ}に^{フカ}り^{フカ}て^{フカ}不^{フカ}界^{フカ}之^{フカ}

昔^{フカ}の^{フカ}人^{フカ}と^{フカ}氣^{フカ}と^{フカ} ち^{フカ}れ^{フカ}と^{フカ}の^{フカ}あ^{フカ}と^{フカ}り^{フカ}け^{フカ}あ^{フカ}り^{フカ}

と^{フカ}氣^{フカ}と^{フカ}糸^{フカ}の^{フカ}あ^{フカ}と^{フカ}れ^{フカ}と^{フカ}一^{フカ}首^{フカ}れ^{フカ}内^{フカ}よ^{フカ}あ^{フカ}れ^{フカ}と^{フカ}る^{フカ}後^{フカ}あ^{フカ}り^{フカ}

み^{フカ}ま^{フカ}り^{フカ}り^{フカ}

り^{フカ}り^{フカ}り^{フカ} 浮^{フカ}ぶ^{フカ}糸^{フカ}の^{フカ}あ^{フカ}と^{フカ}ら^{フカ}り^{フカ}に^{フカ}れ^{フカ}ら^{フカ}る^{フカ}か

あつちびつらあこ

あまの ツクシ だん也

ひのち ツクシ 大井の盛

ふはむつ ツクシ 面白くすはむ

志 ツクシ 源の家目也

海 ツクシ 源也

み ツクシ 源れ ツクシ 琴

ツクシ せ ツクシ の ツクシ 也

力 ツクシ 者 ツクシ 一 ツクシ 向 ツクシ 力 ツクシ 也

つ ツクシ 枝 ツクシ 計 ツクシ 此 ツクシ 地 ツクシ 有 ツクシ 之 ツクシ 河 ツクシ 海 ツクシ 流 ツクシ 喜 ツクシ 益 ツクシ 也

高 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也 ツクシ 心 ツクシ 上 ツクシ の ツクシ 交 ツクシ 也

やうに桂カンラとの庭ニもや又桂の庭をと院ノの
ひらひらあつていかにあつて

まゝりんとつていかにあつて

桂の院ノとつていかにあつて

ふたつね朱桂院ハ桂院ヲとつていかにあつて

秦寺マサデラフハシ西也多桂院ハ桂院ニ事也花別注

そのええとあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

て源の庭ノ也

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いかにあつていかにあつて

いとうあ〜

あまのの御也

けくろりよ〜

大井代前の御也

樹の院〜

樹院へ系する人

く大井へ系する也

〜

源の相りのそめと思え任まら

そ必おる此れを物とぞこ〜

立らるる〜

あを〜

きり〜

源氏次〜

水など〜

あ〜

あ〜

阿加具のあ〜

その事と〜

あ〜

源氏〜

つ〜

あ〜

あ〜

尾尾の御也

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

ふてん云の又お申書まことなるの歌連傳
也ゾク族姓シヤウのさうなるをシ撫ゴウして字のえ傳る也
甚シニ深クなる相ト

うしとわすのうう ぶすといそくさせあごう
ぬしおそののケイキ系キを感カンある也 朱氷シユヒ此コもさひ
ようしとあまひ

伝ツそれー 尼ニの奇也昔キ昔キれあつどを
連レ先レ忘れレたそくさあれなうり者シれま
すれあう

いさう井イの しまう井イの井イこをゆくはるい
らふ也おれ奇キの弟ニ二ニをシ結ツらる也

伝ツ寺ジりー 鏡キョウ鏡キョウのニ堂ドウ此コの也

十ジュウの百ヒャクつツいイとトりリ社シャ日ニチ 伝ツのニ結ツ日ニチあアまマ日ニチ末マツ
の相サウりー月ツキふフ二ニ交カウがガりリ此コはハ襖フス也とありけ
はるの俊シュンりリ流リウりリ結ツふフあアー

月ツキ此コあアるルにニ海ウミ結ツ 大ダイ井イ又マタ海ウミ行ユク也
あアるル世セれ ぬヌふフとト是コノ色イロをシうウふフひヒ結ツー
事コト也彼カノ者モノにニよヨむム結ツー琴コト也

おオもモいイす ぬヌふフとトもモ筆ヒツのニ色イロよヨあアるル
也事コトあアりリ也

あアるルあアるル 今イマのニあアるルにニまマるル結ツふフあアるル
あアのニ昔キらラあアるル必カナラずとト契ケツ結ツー何ナニのニいイふフ

契一六

らーと 落白面らーちへお我らーる
もそくーと也

あひらぬ 條のほ境あひらぬ
うらぬおよと(も)る統ある

あひらぬ ぬらぬと也

らーと也 ぬらぬと也

二条流よ ちのの^カはらぬらぬらぬ(也)
ぬらぬと也 ぬらぬと也

ぬらぬと也 ぬらぬと也

ぬらぬと也 ぬらぬと也

んてー

らーと ぬらぬと也

ぬらぬと也 ぬらぬと也

ぬらぬと也 ぬらぬと也

ぬらぬと也 ぬらぬと也

ぬらぬと也 ぬらぬと也

ぬらぬと也 ぬらぬと也

ぬらぬと也 ぬらぬと也

ぬらぬと也 ぬらぬと也

ぬらぬと也

ぬらぬと也 ぬらぬと也

昔さよさきむとものかよはれ侍ちが^{ササ}大境^{オホサカイ}野^ノ野^ノ野^ノ
今こそはらうら

以^ケ仲^ケの^ノ音^ネ傳^ツ傳^ツ
系^{ケイ}場^{ジョウ}り^リな^ナす

い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク
源^{ゲン}の^ノ箱^{ハコ}也

よ^ハの^ノ舟^{フネ}う^ウ
は^ハじ^ジの^ノ人^{ヒト}は^ハ箱^{ハコ}

山^{ヤマ}乃^ノ錦^{ニシキ}ハ
霧^{キリ}の^ノい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト

一^{ヒト}は^ハ錦^{ニシキ}の^ノい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト

い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク

は^ハあ^アら^ラく^クい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト
粟^{アハ}也

い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク
河^{カハ}邊^ヘく^クあ^アみ^ミな^ナり

あ^アら^ラく^クい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト

い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク
明^{アカ}流^{リウ}也

あ^アら^ラく^クい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト
危^{アヤシ}く^クも^モ志^シれ^レる^ル也^也 未^ミ醉^{サイ}仲^{チュウ}

い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク
岸^{キス}ら^ラく^クい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト

あ^アら^ラく^クい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト
は^ハ箱^{ハコ}也

あ^アら^ラく^クい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト
夜^ヨの^ノい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト也^也 是^{コノ}箱^{ハコ}也

い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク
い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク

い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク
也

い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク
あ^アら^ラく^クい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト

い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク
桂^{ケイ}の^ノ陰^{カゲ}と^ト権^{ケン}の^ノ里^{サト}く^クい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト

い^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^クい^ハら^ハく^ク
あ^アら^ラく^クい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト

あ^アら^ラく^クい^ハと^ト霧^{キリ}は^ハめ^メと^トい^ハと^トい^ハと^ト

まうけのたれ づけお川出たをどし

久方れ 吾方の幽深なるを海入事よとれ

ころ也むきまどもあれと地次の物う
みえころ米朝夕事もとれぬとあつむ華

みどあつむ光あつととを

中にまころ 久望れ中にまし心里をれ

光とものそえよのむつとる

み澄珠鳴 ぬとまけけ奇と編一語と

りりあ漢語して

ものぬる ぬ地

めつりなそ 西朝のそとやあつとるん

り然もれ重り入るる也

浮きり ぬとまけけ一と後より

重りれぬと統してよめ

た大弁 雅とまけけ花るの海と被せ

ら海むとるる

それと乃 氣海手もれ若ふりう

かあつとるるあれ古院の由もさ

朱 花鳥り古院の由もと後ると

ぬとり ぬ地

とのそ けとのおれ親よのそと

たぬらん野やゆきとつとるる

みえざりきれの女 翁とく侍ふも及し守成
 ぬまはつしきおのおのあはれあひけ相書并徳
 是よすつり愛のかこもつしよあ多るうと
 也めえとのをいふ条流よ梅つとも源の月よ
 候うられへに志給とてつこのを也
 うふらひてか 娘とのなえらんれつかひら
 けいひてうねもまてくしき 拾遺
 うてのをいひあま 中文なごめとあはれ
 取われどこ
 きてうー ほか也
 とく海まれり 一勘大略三歳又五歳以上例勿

論^ロ花山院九歳とく思案此勘思並給也此
 袴着^ギハめえ姫也也女人の勘例^キみへ
 さあがすらん ぬえとれ也けあこの書^ヤみへ
 一給ふしき事也
 あしあてくせんよりなれ方お ほかとれ書お
 志給めた源の血版^ラをるうとらんうと
 きてしなり
 とかりかてく 源のうとと思給ひなうと
 と相うと出とてくしき
 うらやまき 自然^ボ徳母をたれあはれ
 とけとあし給とと源の給と

とくあつてよん〜とて

とられば カクシク 氣脈也

養育〜とて

あつていひていひて

これハ解ん〜とて カクシク 氣脈也

あつていひていひて

あつていひていひて

思ふ人あは カクシク 氣脈也

ていひていひていひて

いひていひていひて カクシク 氣脈也

いひていひていひて カクシク 氣脈也

いひていひていひて カクシク 氣脈也

あつていひていひて カクシク 氣脈也

いひていひていひて

いひていひていひて カクシク 氣脈也

いひていひていひて

いひていひていひて カクシク 氣脈也

いひていひていひて

いひていひていひて カクシク 氣脈也

いひていひていひて

いひていひていひて

いひていひていひて カクシク 氣脈也

いひていひていひて

面白く

さなさんと 定て内通金する事也

人御のあしを 昔のあしをなす事なる事也

ひつたまゝにあらん事也

うらゝしき事なりと 今も

あはれなる事也

うらゝしき事なり 始末し

とらゝしき事なり 今も

あはれなる事なり 今も

あはれなる事なり

あはれなる事なり 今も

あはれなる事なり 今も

何うせ 何の事か

あはれなる事なり

あはれなる事なり 今も

あはれなる事なり 今も

あはれなる事なり 今も

あはれなる事なり 今も

あはれなる事なり

あはれなる事なり 今も

あはれなる事なり

あはれなる事なり 今も

あはれなる事なり 今も

世を統つて

人々をひたり され女房さまの車へ

とゆつたり人 ぬきよのちとほれさうり

くたつてまうらんと 是れ皆縁のきり

とゆきよれをい

らまひてはちちのやい ちりへい

すまひひきく人へい

いへりて 二条院の西面なるへい

まうふきつりれ

あまのつれへ ぬきよのちとほれさうり

たあひきり 符合をい

らまひて人のちり されちり

版子へあつてあまのちり

あまのちり 急ぐ事へ 別ふ

不ひるゑと人侍のちり

くへい

きり

まうらつてあまのちり

てあつてあまのちり

くすまひひきく人へい

勤の中也

一勤云今世無存知人頗秘事也

あはれいなり ぬふれは^六あきる也

さいそくあり へちねとあいて海なる

何ひてよとおもひのされど海なるなり

何ふとあき ぬふりりのきき也

ゆきあきん 海はくはあき^六なり

女も 女も也

きもなりぬ 源林一歳也

さうりけいひ 桑^サ賀^カ也

おしあき道のせう ちしあきなり

ちりやどふあき人あり^六朱^子始^シの海^ノなり

うまのわたりふ 天下太平の時也

とりては皆そ^六は^六あるなり

あき^六なりは^六なり^六の^六代^ノなり

ひんりの院 花あき^六なり

をた^六なり ぬふり^六なり

ぬふり^六なり

橋乃^六なり 堂^ノの^六なり

やあ^六なり^六なり

わも^六なり^六なり

よと^六なり^六なり

の^六なり^六なり

橋^ノの^六なり^六なり

くくはす けむづつひと腐く感あり

ううさ海 ううくとくたるはなり

三々七あう けむの室厄け物結ふまう女

のつしむしむ也

はしませぬは ヒヒヤウ しまれ也

きりあれ クシカウ 程なく還るあれ也

きりあれ フサタ 宿のゆれかへる時きぬの心

う乃夢のあつみ フサタ 宿のゆれかへる時きぬの心

こめり フサタ 宿のゆれかへる時きぬの心

おし フサタ 宿のゆれかへる時きぬの心

り フサタ 宿のゆれかへる時きぬの心

か カマジ 柑子の毒るれぬ病者も念

用す ヒヤウ 用す ヒヤウ 用す ヒヤウ 用す ヒヤウ

脚 ヒヤウ 脚 ヒヤウ 脚 ヒヤウ 脚 ヒヤウ

院 ヒヤウ 院 ヒヤウ 院 ヒヤウ 院 ヒヤウ

水 ヒヤウ 水 ヒヤウ 水 ヒヤウ 水 ヒヤウ

源 ヒヤウ 源 ヒヤウ 源 ヒヤウ 源 ヒヤウ

是 ヒヤウ 是 ヒヤウ 是 ヒヤウ 是 ヒヤウ

か ヒヤウ か ヒヤウ か ヒヤウ か ヒヤウ

力 ヒヤウ 力 ヒヤウ 力 ヒヤウ 力 ヒヤウ

包 ヒヤウ 包 ヒヤウ 包 ヒヤウ 包 ヒヤウ

形 ヒヤウ 形 ヒヤウ 形 ヒヤウ 形 ヒヤウ

あまの人あまのひいろ色よ 服衣ゾクエのより縁圖リキエ也

もれくそをた 三磨ミカク八ハチ母ボ派ハれレのノまマをセらシてシ

三葉院 浮れ旦おほく

ふさりれ梢 拳ニテの梢ユカ也

入百守 源氏色今地色ニイロの脂ゾとチアリぬル也

人さうぬ うたうり面白さニあられし人ニ

うあまれらひのあまと也双珠也

入万の交乃内母所 七帝セテの所ニ朱ニ為ス雲乃

沛母ノのヨ也

夏七十

まれぬと 為スのノ也

いれさく ね持ゲ保クる也

あまのいさく ともれさく

あまのいさく

いれさく 傍ゾクのヲ

まうめさあま まうめさうめさあま也

は所ハひハつハとハとハ 一ニ寛クニ筆サシ休グの事な

どを敷き多ク朱ニ何ノとハ定ムこトやハはル也

ためを切がきうもや又たういふのあま

いふけあり付 是らうまをれ相ニまリ

切ヨクのあまのます時ヲらうをあらわてしとらす也

に今キマのあまのます時ヲらうをあらわてしとらす也

あかりこ 傍部の綱也

さあろくまーいー院 相産也

さいさいのま ういさ也

世をまろくあらねどく 係也

佛天のつけあろ わざとあうにりなり

朱ソウ 養うーをいへ

こらま 者毛てららみさしてりさい也

古ま 落き也

くろくちて 鞆也ナヨクギヤウ

天をんをさりふ 例よたひさ天テレ変ビれる

おろみえり

或々ののみこ 枕園モイゾウのまへ

世つさめろ 勅定也

古まのあねん 古まの落き也係也

つねんりさのね

りやあおまーきり事 流の綱也

ひーりれり 曾代セイダイの怪異ケイイをどある事漢

家を朝カホレテウ不可勝計也ナクサと慰ナクサをさり也

まーてこりり 後仕た居或るて文れコウ行

事也何れも皆路のあれた居り也

こりりもあふ ちりれ事いぬのまね

かじいぬいぬいぬと也そのの地也

つひりもつらき所をいふ 今もその所を
同日一書服少すも事せられまじりありと
ふりかへしきまりて 平生もいかに懇勤
海よびくわたりて せんとの所くも好也
今さうに 爲るも海く西の所よりなり
とらふもさうして 回れぬ事ありと
いふに 情ありとて 知れぬと
也けぬ所務の者下付也
りありの所も 事して 西の所
秦始皇之 事河海よりみえたりとて 多うりといふ
ふと例ありて 秦始皇ハ楚莊襄王れりて

即位と實ありハ臣下呂不韋も通して所生
史記私案之 晋元帝ハ牛金と云ル人れり
案鶴林王露第五云呂秦牛晋秦虎視山東
蚕食六國不知六國未滅而秦先滅矣何也始
皇乃呂不韋之子則是嬴氏爲呂氏所滅也司
馬氏欺人孤寡而奪之位不知魏滅未幾而晋
滅何也元帝乃牛金之子則司馬氏爲牛氏所滅
也春秋書晋人滅鄆義正如此胡致堂欲用春秋
法於始皇紀便明書呂氏元帝紀便書牛氏以從
其實

日卒少 吾國少なるをうりて 花を陽成院

あしまりう 中文のまゝのまゝのまゝ
ませの海をぬひの行

秋のまろにまろ 今ハ源氏とは雲のまろ

一筋せばぬぬ朱雀院ハ乃字えとあがて

ふそ人のまろハ一筋ハと也

は神のまろハ 源也

せんまろハと也 源の廻ハ百草ハものハ

まろハまろハと也

何まろハなる 源^{リヤウ}園の中を海とまも

まろハと也

昔ハぬぬた 是^ハ水^ハのぬぬ也

これととあや けいハの昔ハぬぬと

くこれハ神ハ海^ハけい^ハまろ^ハ 小前姉

まろハぬぬた 中文とハ海ハ未^ハと^ハと^ハに^ハん

まろハぬぬた(昔ハ男女ハの^ハ備^ハと^ハる^ハなる^ハさ

まろハぬぬた

まろハ一方 源のまろハ一方ハ事ハ諸^ハり^ハ也^ハぬ^ハぬ^ハ

これハぬぬた 是^ハ水^ハのぬぬ也

源^ハま^ハろ^ハの^ハぬ^ハぬ^ハ 是^ハ水^ハのぬぬ也

まろハぬぬた

まろハぬぬた ぬぬ^ハハ事^ハぬぬ

まろハぬぬた ぬぬ^ハハ事^ハぬぬ

りききありけ
 けいもかりれぬ
 よあつこい整うとまむもあまき路々となは
 由是あのをひれりこまは相済うらあり
 今ひこのの路ひこり
 今この面白く一落せらの由るあや
 あつこいれありを路り流し傳へ
 何の事あり
 左近の

のんく一院り
 新あま里之 東院ふらひ
 ろりー路りあつこいゆてみこり
 箋曰也むあま里 東院ふ路り路りあつこい

乃とてあつこいあり

おろりげよ
 事と路りれをこりて傳りあつこいけあり
 かくしてあつこいこりてあつこい事也
 てあつこいあつこい事也
 らさあつこい中りあり也

ちひあつこい
 氣をきた
 教をくぬあつこいあり
 入内ありーそる路りなるこり也
 けいひろりげも路りて
 新あまの路りひもてけ

源氏の二門無^シ昌^シ十^シ今^シ時^シ也 向^ワ子^シ法^シ証^シ生^シ

きとれりをも念^フめり^テ平^タ公^ノ高^カ門^ノ事^ニ河^ノ海^ノ

直^ニ北^ニら^シち^シ也^ニい^ハら^ル所^ノ何^レノ^カ氣^ノも^チ也 古^ノ案^ニ流^ル

他^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

あ^ハら^ル所^ノ也 古^ノ來^ニ未^ダ支^ス事^ト也

り^ハら^ル所^ノ也 河^ノ海^ノ石^ノ季^ノ倫^ノ金^ノ谷^ノ園^ノ并^ニ樂^ノ天^ノ向^ノと^シひ^クり

や^ハら^ル所^ノ也 河^ノ方^ノ案^ニ 其^ノハ^ハら^ル所^ノ也

一^ニと^シい^ハら^ル所^ノ也 地^ノの^カ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

や^ハら^ル所^ノ也

何^レも^チい^ハら^ル所^ノ也 其^ノカ^ノ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

何^レも^チい^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也 其^ノカ^ノ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也 其^ノカ^ノ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也 其^ノカ^ノ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也 其^ノカ^ノ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也 其^ノカ^ノ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也 其^ノカ^ノ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也 其^ノカ^ノ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也 其^ノカ^ノ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

り^ハら^ル所^ノ也 其^ノカ^ノ氣^ノも^チい^ハら^ル所^ノ也

あゝねいとも秋の夕のあゆみくさり
 くらげうもえぬあし 古は是れおれし
 ぬいほりの秋をれいあせのあゆみくさり
 せんぬきあせうもえぬあし
 是れいとも

あゝねいとも秋の夕のあゆみくさり
 くらげうもえぬあし

あゝねいとも 源朝也

あゝねいとも秋の夕のあゆみくさり
 くらげうもえぬあし

あゝねいとも 源朝也

あゝねいとも秋の夕のあゆみくさり
 くらげうもえぬあし

あゝねいとも 源朝也

あゝねいとも秋の夕のあゆみくさり
 くらげうもえぬあし

あゝねいとも 源朝也

あひこそまゝ人 薄子のめさむくればさうたふ

あつらひとせ

淡くぬ 花を院の結明をふれくりに

給ふよりも昔男の下れあひのそはさうらふ

らぬとせさるるあひ

それこそあつと かがみとさるるあひ

た建つとあつとさくせゆきん

花を源氏のそはあひのそはさうらふ

さくめあひのそはのそはさうらふ

權

卷名以歌并詞号之 源氏三十歳乃九月

よりあはれ末迄の事かんたうり 官内侍

歌院ハハヤク 薄雲巻末よあつとさう

せ給由あつつけりなりん 河原よ延壽帝此

由子の事とらさうり 准拠の例なりん 歌院

一代より一なる也歌院ハハヤク 服あれハ

おり給也代始あつとさうらふ也

あつとさうらふとらさうり 事

いそあつと

あつと月おさうらふ 源の由 重服 歌院

たゞしくおひやげよ

御多しはつてらふと

たゞしはつてらふと

おのの相へ命あづけてはつてらふ

はつてらふと

奉^{ホウキヨ}帝崩御下流成流たれと

くして世ふまわり

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

おのの命あづけてはつてらふ

そのいしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か
多しん事か云ふも也朱源のあり事と
いふは其いしむ

いしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か

いしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か

秋とて
てぬいしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か

いしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か
あつとて
其のいしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か
花は盛るいしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か
書かぬいしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か
いしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か

いしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か
人のいしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か
いしむ事と云ふは下白れたる權の花を
其程なきのありと云ふは其いしむは也か

この山は...
侍...
の...也

ら...
(...也)

り...
...也

は...
...也

そ...
...也

ま...
...也

を...
...也

こ...
...也

あ...
...也

又...也

山

くみよ〜

はあ〜

ら〜

あ〜

ゆ〜

ゆ〜

〜

き〜

き〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

あれま ぬえま也

な〜 権の文代

〜

あ〜

あ〜

あ〜

〜

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

老者の歯^{オチ}齧ては打田^{ウチ}がみ

わがまよへる

ららむんといふ だれ^ガものぢ

らひら一程よ 朱^シくく老^ロらちもや^ヤ 匠^シ海内^{ウチ}の

わがまよへる^シわがまよへる^シ 匠^シ海内^{ウチ}の

わがまよへる^シわがまよへる^シ 匠^シ海内^{ウチ}の

わがまよへる^シわがまよへる^シ 匠^シ海内^{ウチ}の

わがまよへる^シわがまよへる^シ 匠^シ海内^{ウチ}の

わがまよへる^シわがまよへる^シ 匠^シ海内^{ウチ}の

わがまよへる^シわがまよへる^シ 匠^シ海内^{ウチ}の

わがまよへる^シわがまよへる^シ 匠^シ海内^{ウチ}の

いまもといふ 今^{イマ}もあつたら老^ロのやうに

海内^{ウチ}のよと也^ヤ老^ロといふら^ラは老^ロなるのよ

と也^ヤ朱^シ海内^{ウチ}のよと也^ヤ老^ロといふら^ラは老^ロなるのよ

老^ロの来^キ程^チよみ^ミなる事^{コト}とまは

あつたら^シいふ 海内^{ウチ}のよといふら^ラは老^ロなるのよ

あつたら^シいふ 海内^{ウチ}のよといふら^ラは老^ロなるのよ

わがまよへる^シわがまよへる^シ

入^イるれ^レあ^アを^オい^イの 海内^{ウチ}のよといふら^ラは老^ロなるのよ

くう^クら^クら^クら^クを^オま^マり^リ 海内^{ウチ}のよといふら^ラは老^ロなるのよ

かく^カを^オま^マり^リ 海内^{ウチ}のよといふら^ラは老^ロなるのよ

わがまよへる^シわがまよへる^シ 匠^シ海内^{ウチ}の

お昔のちちあはれなり

ふとていふよ　　く世中れはなほよと云ふ

よといふおとを海内ゆるき昔月のよと云ふ

と昔のちちあはれなり

あふれと　　あやの親とあはれなり

あやの親とあはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

あはれなり

ひしひしとくさ 新院の由公へ

いふまじの ぶきいほよまなびのさかひに

まひまひ ちりりいほち也

あひまひり 係のち也

まひまひりまひ ちりりいほちのち

あひまひ 係のちのち

あひまひ

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

あひまひ ちりりいほちのち

何の事か ちかぬん ちかぬん

うらなふ ちかぬん 源の公人乃ちを破り

てな ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ん ちかぬん

まの人の事乃 赤院のちかぬん 源の公人乃ちを破り

ちかぬん ちかぬん

あつた世の人乃 けいれい ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん

ちかぬん ちかぬん ちかぬん ちかぬん

わりのわりのち也

わんわんわん 舞臺(キョウ)のうらやまの心でせうくも

さうさうさうー 朱砂(アカ)のまじりけるさうさうー

ひまわりはなはなはな 別版(ワカ)されり也

めてんたんのの 海(ウミ)のうらやま

ひまわりはなはな 海(ウミ)のうらやま

まけてんたんのの 海(ウミ)のうらやま

さうさうさうー 朱砂(アカ)のまじりけるさうさうー

さうさうさうー 朱砂(アカ)のまじりけるさうさうー

わりのわりのち也

昔(カ)よりわりのわりのち也 海(ウミ)のうらやま

わりのわりのち也

わりのわりのち也

わりのわりのち也

わりのわりのち也

わりのわりのち也

わりのわりのち也

わりのわりのち也

わりのわりのち也

わりのわりのち也

わりのわりのち也

わりのわりのち也

志とくはしむるは海の子也

秋と竹也の 海くもぬま雪のしほ也

冬はよのよあるぬま 西の岸くぼふくうく

志はせり けりつそふ老と成ともつそは

雪のこなる月をこらんと 雲際カササキのよあはも

あうれをたう

こも捲マキあけて 香炉カウロ峰ホウノ聖ハカセテ撥テ簾テ省シラミのふこ

あゝあゝこれよ ことくさみとさるこまを夜

そらにふりて 略ハカくはるる

あひ志とけなると 袴ハカマの腰コシなるる 朱スサキの井

すゝい前マ世シの安也

まゝんまゝと あゝあゝはらへ也 童コ気也あゝ

あゝあゝ 奥ウラへはらへ

井とびら 女メ麻マとこのなるひの面オモあゝん

あゝあゝの麻マあゝとあゝと打ウとけい

あゝあゝと かせいへくちよまうらんとする

也あゝつひの貪ネム也

中文のほおよあはら 海ウミはらへくはるる行也

中言ナカコトの海ウミ雲クモこあゝのひの海ウミ花ハナもふみえ

より依ヨ院イン後ゴ依ヨ院イン永エイ仁ニの比ヒ迄トけり

あり徳トク家ケの記キ録ロクよりとんえり 人ヒトの心ココロ

あゝとてはらへ

らんをまゝ
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

らんをまゝ  
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

らんをまゝのあれどおどろかするんえ
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

らんをまゝのあれどおどろかするんえ  
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

らんをまゝのあれどおどろかするんえ
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

らんをまゝのあれどおどろかするんえ  
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

らんをまゝのあれどおどろかするんえ
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

らんをまゝのあれどおどろかするんえ  
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

らんをまゝのあれどおどろかするんえ
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

らんをまゝのあれどおどろかするんえ  
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

らんをまゝのあれどおどろかするんえ
~~~~~  
らんをまゝのあれどおどろかするんえ

ひんぐのめんこ

むかしのまき

かきこゝろ けんの極なからいさうこゝろ也

氷とら 南唐の神だよりあつて極色あまのみ

となく<sup>を</sup>揚つる也

急字ゆり人 唐也

とらばちま ことひつちかひひらよみ

ねく虫をまめはひのまといふ公と又人

しとちねく

うさばち ことありあつていさうこゝろ

くら 一葉のちかといひしきまはしむらひ

まのちま こといさう也

うらち

夢の中也

今よりみく 夢中より代也

うちとく 一うらち 唐のまじりていさう

あまのちか 一葉のちかといひしきまはしむらひ

あまのちか 一葉のちかといひしきまはしむらひ

うさばち 一葉のちかといひしきまはしむらひ

まげてねみ 今部あまのちかといひしきまはしむらひ

まらふちせうこ 一葉のちかといひしきまはしむらひ

こといさう也

内よち田公のあま 一葉のちかといひしきまはしむらひ

ねい海とちかといひしきまはしむらひ





